



- 続いて、テーマⅢの駐車場エリアに関し、
- 駐車場に停められる駐車台数、
- 駐車場の状況に応じた柔軟なスペースの活用、
- 駐車場の設えなど、環境・景観への配慮、
- 以上3項目を説明いたします。



- 駐車場エリアについて、配置図で場所をご確認ください。
- 南側に青色の点線でお示したエリアは、多目的広場としても活用できる、交流広場やコミュニティ広場を利用される方が駐車する駐車場として整備を進めていきます。
- 北側には主にリニアを利用される方が停車する北側駐車場①と
- 北側駐車場②を整備します。
- また、緑色の点線は、北側多目的広場となり、イベント時に活用していただくことを想定していますが、繁忙期には、臨時駐車場として利用することも想定しています。

Ⅲ 駐車場エリア（1 駐車台数①）		
1 駐車台数	意見要望	● 駐車場がリニア駅前空間にはどのように配置されるのか。 ● イベント等に利用する駐車場は想定しているのか。 ● どの駐車場に何台、また全体で何台、車をとめることができるのか。
	対応方針	● 利用想定に応じた、駐車場を5カ所設置する。 ● 北側多目的広場は、イベント開催時等の場合には、臨時駐車場として利用することを想定。 ● 駐車台数は、全体で500台を整備する。

- 「駐車場エリア」の駐車台数について説明します。
- 報告会などを通じて、
- 『駐車場がリニア駅前空間にはどのように配置されるのか。』
- 『臨時イベント等に利用する駐車場は想定しているのか。』
- 『どの駐車場に何台、また全体で何台、車をとめることができるのか。』などのご意見をいただき、これらを踏まえた対応として、
- 『利用想定に応じた、駐車場を5カ所設置する。』
- 『北側多目的広場は、イベント開催時等の場合には、臨時駐車場として利用することを想定。』
- 『駐車台数は、全体で500台を整備する。』
- といった方針をもとに、このエリアの実施設計を進めました。



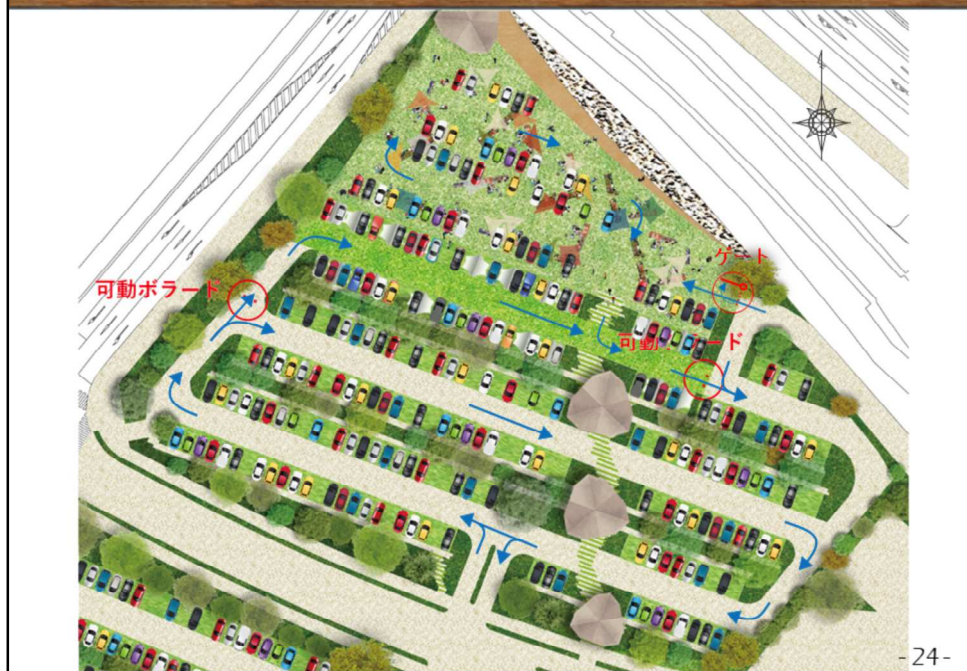
- 駐車台数としては
- 北側駐車場①が71台
- 北側駐車場②が220台
- 北側多目的広場を臨時駐車場として利用する場合に59台
- 広場利用者を主な対象とする南側多目的広場が115台
- 北側交通広場にある短時間駐車場が35台
- 合計で500台分の駐車場をリニア駅前空間に整備することを計画しています。

Ⅲ 駐車場エリア（２ 柔軟なスペースの活用①）		
2 柔軟なスペースの活用	意見要望	●リニア駅前空間の効果的な活用が大切。 ●駐車場へは整然と車が停められる仕組みが必要。 ●利用状況に応じた駐車場の使い方等を具体的に示して欲しい。
	対応方針	●特に、北側駐車場②と多目的広場については、状況に応じたフレキシブルな活用ができるようにする。 ●そのために、可動式の車止め（ボラード）を設置し、駐車場の利用スペースをコントロールできるようにする。

- 23 -

- 続いて、「駐車場エリア」の「柔軟なスペースの活用」について説明します。
- 報告会などを通じて、
- 『リニア駅前空間の効果的な活用が大切。』
- 『駐車場へは整然と車が停められる仕組みが必要。』
- 『利用状況に応じた駐車場の使い方等を具体的に示して欲しい。』などのご意見をいただき、これらを踏まえた対応として、
- 『特に、北側駐車場②と多目的広場については、状況に応じたフレキシブルな活用ができるようにする。』
- 『そのために、可動式の車止め（ボラード）を設置し、駐車場の利用スペースをコントロールできるようにする。』
- といった方針をもとに、このエリアの実施設計を進めました。

Ⅲ 駐車場エリア（２ 柔軟なスペースの活用②）



- ここでは、北側駐車場②と北側多目的広場を連携させて、フレキシブルに活用する例について説明します。
- 北側駐車場②には、平常時には東西の中央2か所それぞれに、可動の車止めであるボラードを設置します。
- これにより、南側のリニア駅前停車場線や東側の土曾川横断道路から進入した際には、青矢印のように時計まわりで走行し
- このエリア内で駐車していただくことになります。
- 駐車場の利用者が多くなってきた場合には、可動ボラードを下げると、
- 青矢印のような時計回りの走行も加わり、
- 北側駐車場②の北側部分を駐車場として追加で開放して、ご利用いただけるようになります。
- さらに、他の駐車場の関係等で、北側多目的広場を臨時駐車場として活用する必要が生じた場合には、土曾川横断道路からの入り口付近にあるゲートを開くと、
- 図のように北側駐車場②と北側多目的広場が一体となったエリアで駐車場として利用できるようになります。
- 可動ボラードが上がっている場合には、
- 北側駐車場②の北側部分と北側多目的広場を大規模なイベント等のスペース等で活用することもできるようになります。

Ⅲ 駐車場エリア（２ 柔軟なスペースの活用③）

北側多目的広場のマルシェの様子

〔北西から南東を望む〕



- 25 -

- 北側多目的広場と北側駐車場の一部を一体的に活用したイメージです。
- これは以前の報告会でお示したイメージ図と同じものになりますが、北側多目的広場を北西から南側の伊那山地を望んでいます。
- この広場は、マルシェやキッチンカーによるグルメフェスタ、焼肉日本一のまち「いいだ」のイベントなど、多目的な利用ができる設えとすることとしています。
- なお、駅舎の形状・デザインは、今後JR東海に要望し、協議・検討していくためのイメージになります。

Ⅲ 駐車場エリア（3 環境・景観への配慮①）		
3 景観・環境への配慮	意見要望	●リニア駅前空間で駐車場が大きな面積を占めるので、景観面や環境面からの配慮が大切と思う。 ●雨がまとまって降る場合なども想定して、防災の面にも配慮して欲しい。
	対応方針	●駐車場や多目的広場、さらにはコミュニティ広場については、グリーンインフラの考えを取り入れた整備を進める。 ●具体的には、雨水を浸透・集水できる機能を実現するために、緑化舗装や浸透トレンチの設置を行うとともに、景観に配慮した植栽を計画する。

- 26 -

- 続いて、「駐車場エリア」の「環境や景観への配慮」について説明します。
- 報告会などを通じて、
- 『リニア駅前空間で駐車場が大きな面積を占めるので、景観面や環境面からの配慮が大切と思う。』
- 『雨がまとまって降る場合なども想定して、防災の面にも配慮して欲しい。』などのご意見をいただいております、これらを踏まえた対応として、
- 『駐車場や多目的広場、さらにはコミュニティ広場については、グリーンインフラの考えを取り入れた整備を進める。』
- 『具体的には、雨水を浸透・集水できる機能を実現するために、緑化舗装や浸透トレンチの設置を行うとともに、景観に配慮した植栽を計画する。』
- といった方針をもとに、このエリアの実施設計を進めました。

III 駐車場エリア（3 環境・景観への配慮②）



- 駐車場や広場に関しては、一般的なアスファルト舗装ではなく、グリーンインフラの考えを取り入れ、整備を進めていきます。
- 緑化舗装を大きく取り入れるとともに、地中には、雨水を導き、その雨水を側面や底面から浸透させる「浸透トレンチ」と呼ばれる施設を設置します。
- これに加え、地表表面を流れる雨水を吸水するために植栽されたエリアを多く設けて、雨水の浸透や集水できる機能を充実させます。
- これらにより、豪雨時の雨水流出量を減少させ、下流域への雨水の流出による影響を低減させることができると考えています。
- また、緑地面積を増やすことにより、真夏のアスファルト舗装からの照り返しによる影響も低減させることができると考えています。